

4月8、9日の凍霜害に対する農作物技術対策

平成30年4月9日
塩谷南那須農業振興事務所

○管内の塩谷町のアメダス観測点において4月8日、最低気温-1.0℃、4月9日、最低気温で-1.5℃を観測しました。

今後、品質の低下や病害の発生が懸念されますので、次のとおり技術対策を行いましょ
う。

麦類

(1) 幼穂凍死が発生すると登熟が不揃いになるので、収穫を通常より3~4日遅らせ、
遅れ穂の成熟を待つようにする。

(2) 不稔が発生すると赤かび病が発生しやすいので、赤かび病の防除を2回行う。

	1回目	2回目	3回目
二条大麦	穂揃い期 7~10 日後	1回目の 7~10 日後	赤かび病多発の恐れがある場合 赤かび病多発の恐れがある場合
六条大麦	開花始め	開花 10 日後	
小 麦	開花始め	開花 20 日後	

(3) 二条大麦は不稔が多発すると裂皮粒が発生しやすいので、収穫・乾燥・調製は丁寧
に行う。

今後も、しばらくの間晩霜などの発生が見込まれますので農作物の管理には十分注意をし
ましょう。